

犬山桃太郎関連情報

呪術と伝説の杜 博物館（栗栖地区）

自然の中に息づく伝説と信仰

犬山から県道栗栖犬山線を北上すると、豊かな川の流れと深い緑に囲まれた栗栖にたどり着きます。ここは、木曾川兩岸の山稜や水際の巨石からなる風景により、昭和2年には毎日新聞社の日本八景にも選定された名勝地です。豊かな自然は、季節ごとに私たちの目を楽しませる一方、神聖な場所として古くから信仰の対象となってきました。

古代の人々にとって、信仰の対象は自然界における事象や事物すべてでした。「八百万の神」というほど日本の神が多いのはそのためです。人間の力ではどうすることもできない自然の出来事に神の姿を見たのでしょう。巨石、滝、川、巨木などが神の宿るところとみなされていたので、山は靈域として信仰の対象になり、多くの神社や仏閣が創設されました。

栗栖には寂光院、大泉寺、桃太郎神社がありますが、一見関係なさそうなこれらの宗教施設に意外なつながりを見ることができます。

神が刻んだ仏 ～神仏習合～

寂光院は、孝徳天皇の勅願寺（天皇の祈願により鎮護国家・玉体安穩のために建立された寺）として白雉5年（654年）に創建されたと伝えられます。本尊仏は千手観世音菩薩で、長足庵甫磨の著した「犬山視聞圖絵」によると、この観世音菩薩は熱田神宮の御神魂であるとされています。また、この地方の伝説「木屑のあと」に、熱田神宮の御神体が沙門に姿を変え観音像を刻んだとあります。寺院に神の取り合わせは奇異に感じられますが、古代仏教の天台宗や特に真言宗ではよく見られることです。これは、奈良時代の神仏習合に始まる我が国独自の宗教現象で、神は仏が仮に姿を変えたものであるとする本地垂迹説もあらわれました。大日如来＝天照大神としたり、神が仏に教えを乞い、後に鎮守になったなど、両宗教には混在がみられます。つまり、民衆においては、神の祟りを鎮め、回避するための救いが仏教に求められた結果といえます。

栗栖にあるもう一方の寺院、大泉寺は応永8年（1401年）に足利義満の命により創建されました。この寺院に伝わる犬山市指定文化財の「懸仏」は、本地垂迹の特徴がよくわかる垂迹美術です。鏡（神鏡）の真ん中に仏の像がはり付けてあり、これは仏が中心で神がそれを守っている図を現しています。鏡と仏の取り合わせは、真言宗や天台宗の密教系寺院によく見られ、元曹洞宗であった大泉寺（現在は臨済宗）にこの「懸仏」が伝わるのは意外に思われますが、禅宗の僧も多数写経に訪れたという寂

光院の影響も考えられるでしょう。明治維新の折の
廃仏毀釈で「懸仏」も多くが破損されてしまいました。
た。

懸仏（かけぼとけ）

鏡板に仏や神の像を刻んだり貼り付けた器物。御正体（みしょうたい）とも呼ばれる。神仏習合の思想に基づいて制作され、神社や寺院に奉納された例が残っている。平安時代中期（10世紀ごろ）から銅鏡の鏡面に仏の姿を毛彫り、線刻した鏡像（きょうぞう）が制作されるようになる。鏡像は次第に華美となり、立体的な仏像を鏡面に彫刻ないし添付することが増加した。これらの器物は、本地垂迹の思想から「神の真なる姿」という意味で「御正体」と呼ばれた。壁に懸ける目的で吊り輪を取り付けたものも多くあり、そこから「懸仏」とも呼ばれるようになった。南北朝時代以降は次第に像が簡素化し、装飾が豪華になる傾向があった。懸仏は江戸時代まで作成されていたが、明治の神仏分離と廃仏毀釈に伴い、神社に奉納されていたものは多くが取り払われ、失われた。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

本地垂迹（ほんじすいじゃく）

仏教が興隆した時代に発生した神仏習合思想の一つで、神道の八百万の神々は、実は様々な仏（菩薩や天部なども含む）が化身として日本の地に現れた権現（ごんげん）であるとする考えである。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

信仰における呪術 ～桃太郎伝説と寂光院～

栗栖には桃太郎伝説が伝わりますが、これは、伝説に合致する地名が多数存在すること、桃太郎が最後に姿を隠した山とされる桃山が民衆信仰の対象であったことが理由にあげられます。しかし一方で、ここが犬山から見て鬼門にあたることを考えると、呪術というほかの要素を考えることもできます。鬼門とは艮（うしとら北東）の方角を指し、陰陽道において忌むべき方角とされ、鬼が出入りすると信じられていました。古くは、自然の事物を神と崇めたように、それに対する呪いも真剣に行われていました。それが色濃く現れているのが陰陽道で、古代中国から伝わり日本で独自の変化をたどりながら真言宗などの仏教に影響を及ぼしました。真言宗である寂光院は、織田信長や徳川義直から寺領の寄進や諸役の免除を受け、清洲と犬山の鬼門鎮護を担う寺として呪術的な役割も果たしているのです。仏閣と神社、創建時代と古代と現代と、寂光院と桃太郎神社には一見なんの共通点も無いように見えます。しかし、それぞれの伝説とそれを裏付ける土壌からは「鬼」という共通のキーワードが現れ、そこに生きる人々の思想を如実に現してくれます。

犬山の中でも、この地域ほど伝説と信仰が見事に融け合い、伝えられてきた土地はないでしょう。それは、畏れ敬う豊かな自然があればこそともいえます。今も変わらない川の流れと梢のざわめきに、古代の人々の営みと信仰を垣間見ることができるようです。

発見の小径

地区内には、主要道路として県道が1本あります。このほかに、犬山市独自に設定している自然散策コースもあり、これらの道は、自然と歴史を体感する発見の小径として活用できます。

歴史を歩く道 栗栖街道（県道栗栖犬山線）

この地区の中心を縦断する主要道路。地区内学習施設と各資源が沿線に存在し、これらをほぼ結ぶことができます。また、この道自体が、かつて街道として利用されていた歴史資源です。

寂光院 → 不老公園 → 不老の滝 → 桃太郎神社 → 栗栖の渡し → (暫遊荘) → 大泉寺

犬山の自然をたずねて 継鹿尾山周辺コース

『犬山の自然をたずねて』（犬山市企画課発行）のハイキングコースの1つ。独自に設定されたルートでは、この地区の豊かな自然を体感することができます。

犬山国際ユースホステル → 継鹿尾累層 → 寂光院 → 東海自然歩道 → 犬山自然休養林 → 大平山1号墳・2号墳 → 層状チャート → 不老の滝 → 木曾川（不老公園）